

Senriyama

千里山建築会会報

Contents

副会長挨拶	西田佳代 (21 期)	1
着任の挨拶	助教 宮地茉莉	2
着任の挨拶	教授 都築和代	2
着任の挨拶	教授 山崎雅弘	3
教室だより	教育主任 教授 亀谷義浩	4
退職にあたって	教授 西澤英和	4
いつもとちがった卒業式	橋寺知子 (18 期)	5
事務局から		6



第 32 号 2022 年 3 月 19 日発行

千里山建築会

〒 564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

関西大学環境都市工学部建築学科内

TEL : 06(6368)1121 (代表)

FAX : 06(6368)0093 (建築学科共通)

HP : <http://senriyama.xsrv.jp/wp/>

副会長挨拶

西田佳代 (21 期)

30 年ほど前になる。論文のテーマとして選んだのは「関西大学の村野建築」。

千里山キャンパスには、村野藤吾（村野・森建築事務所）設計による建物が、脚光を浴びていない（割と普通の）建物を含めると実はたくさん存在する。それらを調べるといふもの。



西田佳代 副会長

調査という聞こえは良いが、これに決めた理由は①村野藤吾が好き（モノクロ写真のお姿がとにかくカッコいい）②あちこち堂々と探検できる③なにより近い（千里山キャンパス広いとは言え、ホームだし）と、'意識高い系'とは、かなりかけ離れたものだったと記憶している。きっかけはともかく、一見、割と普通の建物も、必ずどこかに村野のエッセンス（いたずら心？）は発見でき、調査自体はワクワクに満ちたものだった。論文（まとめは割と大変で、その節は随分とM氏に世話になった）は無事受け取ってもらい、卒業後は設計事務所に勤務。以降は、村野藤吾的な建築とはあまり縁のないフィールドで 20 年ほど建築設計に携わることになる。現在はクライアントリレーション (CR) という部門に所属しており、建築設計はしていない。

設計部から CR 部に異動となり 7-8 年経った頃、あるビル事業者様の担当を仰せつかった。彼らが所有している（いた）建物には、村野藤吾が設計

に関わったものがいくつかある。建替えを余儀なくされたものは丁寧に記録をとり、建築に対する思い・歴史をとて誇りに思い大切にしておられる。そんなクライアントの思いがひしひしと伝わってくる。CR 担当となったことに、思わずご縁を感じてしまう。

自分が村野藤吾ファンであったことは、クライアントにはなんとなく打ち明けられずにいるが、記録写真や当時の名残などを目にするたびひそかに目を輝かせ、同時に千里山キャンパスで過ごした日々を思い出してこっそり楽しんでいる。

何気ない日々の中で、人・コト・モノ、本当に多くの出会いがある。その中で'学生時代を関大で過ごしたからこそ'のご縁を感じることもたくさんあり、そのたびに驚き、喜び、なんとなく兄弟姉妹と再会したような不思議な居心地のよさを感じたりする。千里山建築会を通して、これからもたくさんの新しいご縁が繋がっていけば良いなと思う 2022 年である。



大阪市内某所。

旧ビル（設計：村野・森建築事務所）の 4 階外部に鎮座していた羊くんたち。建替えを機に地上におりてきた。※思っていたよりだいぶ大きかった…

新任の先生ご紹介

着任の挨拶

助教 宮地 茉莉

2021年4月に助教として着任いたしました宮地茉莉（みやじまり）と申します。京都大学工学部建築学科及び工学研究科建築学専攻修士課程を修了し、同大学地球環境学舎地球環境学専攻博士後期課程を2019年9月に卒業、2021年3月まで同大学地球環境学舎にて特定助教として勤めておりました。「海外の農村における災害後の住宅再建」を研究テーマとして、学部・修士過程ではバングラデシュの避難所利用について、博士課程では南太平洋のフィジーにおいて災害後の伝統住宅再建について現地調査を行い、学



位論文を書かせていただきました。国内では、兵庫県丹波篠山市にて大学生と、地域の高校生、地域住民と協働し、地域資源である竹を使ってバス待合所をデザイン・製作するプロジェクトに取り組む他、主に農村地域にて実践研究活動に取り組んできました。

教育面・研究面ともに未熟ではありますが、関西大学の理念である「学の実化」に一歩でも近づくことができるような教育・研究を目指し、精進していく所存です。コロナ感染拡大の影響により、国内外問わず活動が制約されておりますが、DXなど新しい手法を取り入れつつ、可能な限り学生と共にフィールドに出ていき、教育・研究を実践していければと存じます。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

着任の挨拶

教授 都築 和代

2021年4月に着任しました都築和代（つづきかずよ）と申します。出身は愛知県で、出身校は奈良女子大学家政学部住居学科で、1990年奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程を修了しました。

その後、日本学術振興会特別研究員として東京の国立公衆衛生院でポストドクを行い、1992年に茨城県つくば市にある工業技術院製品科学研究所で研究員に採用されました。その後、研究所が名称・組織変更しましたが、現在の国立研究開発法人産業技術総合研究所に24年間、主任研究員、グループ長、総括研究主幹を勤め、途中、米国カリフォルニア大学バークレー校でリサーチスペシャリストとして勤務しました。

研究分野は室内温熱・空気環境であり、人の温熱快適性、体温調節や睡眠への影響や高齢者の温熱感覚や子どもの体温調節などの研究、ISOなどの



標準化活動に取り組んできました。子育てが一段落した2016年に国立大学法人豊橋技術科学大学院工学研究科に教授として採用され、建築環境工学を担当し、大規模災害時の避難所環境での睡眠対策や建設労働現場での熱中症予測、デシカント換気システムやその空気環境などを研究対象としてきました。

建築環境工学分野の熱・空気環境は技術開発の進展が著しいうえに、昨今のカーボンニュートラル、持続可能性、省エネルギーなどのキーワードと親和性がよく、かつ、住宅の断熱・気密などと関係しています。2003年の建築基準法改正により、新築住宅には換気設備の設置が義務付けられ、0.5回/時の換気回数が定められました。

近年、都市の温暖化や地球温暖化など、夏季の都市部においてはエアコンなど冷房機器を使用せず生活することは困難な状況になっています。しかし、冷暖房機器の設置や使用は居住者の感覚やそれまでの習慣的なタイマー使用など居住者任せになっています。

また、換気による外気導入は空気を清浄にするだけでなく、夏は高温高湿な、冬は低温低湿な外気を室内に導入するため、エネルギー消費にも影響を与えるととともに、非暖房室にあたる廊下や脱衣室は冬には低温になり、入浴時の突然死など健康問題にも直結しています。

この度、関西大学で勤めさせていただくことになりました。教育者・研究者としてこれまで学ん

できたこと、また今後関西大学で学んでいくことを活かし、関西大学の理念である「学の実化」に一步でも近づくことができるような教育・研究を展開することを目標に頑張っていく所存です。またこれらを通して微力ではありますが、関西大学建築学科の発展に貢献したいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

着任の挨拶

教授 山崎 雅弘

2021年4月に建築学科建築基礎工学研究室に伊藤淳志教授の後任として着任させていただきました山崎雅弘（やまざきまさひろ）と申します。

これまでの経歴を示します。京都大学工学研究科建築学専攻を1986年3月に修了し、建設会社に5年半、その後、京都大学助手として着任し、講師と合わせて15年、次いで、岡山理科大学における建築学科新設準備のために設立1年前からこの大学に職場を変え、設立後は教員として14年間勤めました。実務から研究、大学運営と様々な経験をさせていただいてきました。

専門分野は建築基礎工学ですが、学生時代は中村恒善教授の構造力学講座に所属し、力学に奥深さと現象のメカニズムを理解することの面白さを知りました。実務も上部構造の設計関係でしたが、京都大学に着任したときに師事した長岡弘明教授の下、建築基礎工学の研究を始めました。

当初は、純粋力学に興味と美しさを感じておりましたので、建築基礎工学では自然が作り出すばらつきの大い地盤によって性能が決定する基礎構造が対象ですので大変戸惑いました。博士論文に向けては、このばらつきが大い分野でどのように研究を進めるのか、研究の価値をどのように自分に納得させ、他者にどのように主張するのかと思悩む時期となりました。

そのころに、関西大学の当研究室の教授の故・山肩邦男先生の前で成果を発表する機会を得まし



た。研究内容は、杭基礎の設計に対して、FEMによる基礎構造のシミュレーション解析と情報処理技術（ニューラルネットワークや遺伝的アルゴリズム等）を利用する方法論のようなものでした。実際の地盤と基礎構造を対象に研究されてこられた山肩先生は机上の空論のように思われるのではないかと非常に緊張して発表させていただきましたが、これからの技術として評価していただき大変ありがたく思ったことを記憶しています。

現在でも基礎工学の分野ではそのメカニズムが明確でないものが多く残っており、実験と理論および解析の両者を適切に利用することで新たな発見をすることができる非常に興味深い分野であると考えています。混沌とした現象の中に、基本的な道筋を見つけるための理論・解析的検討、その道筋を通して実際の実験等の現象を眺めると、真理とばらつきを分けて見通すことができ、その逆に、実験的検討から理論・解析的研究の誤りを正すことができると実感しております。

縁あって、関西の建築基礎工学のメッカともいえる当研究室に着任させていただくことになりました。建築の中では花形でないかもしれませんが、基礎的で重要な分野であり、経験学的な傾向が強い分野であります。本学において、学生と議論し、少しでも建築基礎工学の知識と感覚と伝え、これを手段として筋を通して物事を見て判断する経験をしてもらい、私のこれまでの社会人としての経験も交えながら、社会で頑張り楽しんで生きていけるように若者の手助けができればと考えております。このような考えで、微力ながら関西大学に貢献していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

2021年度の建築学科は、3人の新任教員をお迎えし、スタートしました。計画系、構造系、環境系、それぞれ一人ずつ新しい教員が加わったわけですが、3人の内2人が女性です。これで、我が建築学科の教員は、17人中4人が女性になりました。理工系の他学科に比べると女性比率が高い学科であり、女性の活躍が期待できるところです。また、今年度をもちまして、建築保存工学の西澤英和先生が退職されます。西澤先生は、建築学会賞を受賞されるとともに、建築教育に多大なる貢献をされました。来年度には、その意を引き継ぐ新しい教員を1人お迎えすることになります。昇任人事では、豊田政弘先生が准教授から教授に、野村正晴先生が助教から准教授に昇進されました。建築学科の教員体制や教育体制が大きく変わっていきます。

皆さんご存じの通り、現在コロナ禍にあり、社会は大変な状況にあります。社会活動や生活スタイルが大きく変わるとともに、経済の低迷も危惧されるところです。大学も同様であり、感染対策はもとより、対面授業の可否、ZOOMやオンデマンドの活用など授業形態の見直し、新しいスタイルでの教育方法を模索しているところです。本年度の学部新入生は101人、大学院新入生は30人で、例年と大きく変わりませんが、

来日できない留学生が多くいます。入学試験に合格しているもののビザの発給が遅れていて待っているのです。こうした学生の対応は非常に難しく、全国的に同じ状況ですが、日本政府によるこれらの改善は、今年度中には難しいようです。関大においては、留学を希望する外国人が多くなってきていますが、来日できない受験生などの入試対応も求められています。また、コロナ禍にあつて、キャンパスの様子も変わってきています。キャンパス内の広場である悠久の庭においては、学生のみならず、近隣住民の利用が多くなり、土日や祝日になると、小さい子供を連れた多くの家族で賑わっています。緑の多い場所では、高齢者の散歩も多くなりました。開かれたキャンパスを感じることができるところです。皆さんにおかれましてもぜひキャンパスに足を運んでいただき、新しい関大を発見していただきたいと思います。現在、関西大学建築学科では、将来構想を議論し、新しい進むべき道を模索しております。非常勤講師をはじめ、産官学連携の中、協力いただいている卒業生の皆様には感謝申し上げますとともに、我が建築学科の活動に一層のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

退職にあたって

教授 西澤 英和

2007年4月に関西大学に参りましてから早や15年。本年2022年3月に70歳で定年を迎えましたので、これを機に赴任した頃の調査研究などを振り返ってみたいと思います。

まず思い浮かぶのは 着任直前の2007年3月25日に能登半島地震(M6.5)が発生したため、4月早々八尾先生達と急遽被災地の輪島や門前に出向いたことですが、翌2008年9月のリーマンショックも忘れられません。僅か1月前の北京オリンピックの熱狂から一転、世界経済が連鎖崩壊の奈落に落ち込んでいくのを目の当たりにし、Subprime Loanだ、Derivativeだ、Hedge fundなど得体の知れない博打打ちが跳梁跋扈する国際金融界の実態に暗澹たる気持ちになったことを鮮明に記憶しています。

ところで当時、第4学舎では旧耐震基準の建物の耐震補強工事が最盛期を迎え、頻々と研究室の移動が繰り返されていましたので、私共の研究室が将来どこに配置されるか予想もつきません。そのため第5実験棟3階の伊藤研究室の一隅をお借りして取り敢えず“保存工学研究室”はスタートしましたが、程なく2号館研究棟に移り、さらに研究棟内でも引越しを繰り返して、漸く落ち着いた時には着任後4年近くが経過していました。

あの頃、定まった研究スペースを持つことなく、研究を進めるにはどうしたらいいかと考えた末、“学内のLaboratoryにはこだわらず、キャンパスの外の歴史的建造物の実物研究に軸足を移そう”というアイデアにたどり着きました。こうして、まずは2007年夏ころから3年かかりで滋賀県の民俗文化財 日野祭りの16基の曳山の構造強度の調査に着手し、続いて奈良県斑鳩の中宮寺表御殿の耐震強度調査、岐阜県指定永照寺本堂の耐震調査—この本堂は明治24(1891)年濃尾地震(M8.0)・昭和19(1944)年東南海地震(M7.9)・昭和20(1945)年三河地震(M6.8)の3度の大地震に耐えた稀有の事例です—、更に江戸期の民家の耐震改修事業として兵庫県三木市の登録文化財旧玉木家住宅や三重県鳥羽市の旧広野家住宅のほか、伊勢市二見の御座所“賓日館”や岡山県備後府中の登録文化財“恋しき”の耐震調査に出かけました。

歴史的建物にはそれぞれ語りつくせないほど豊かなエピソードがありますが、丹波市の旧上久下村営上滝水力発電所のレンガ造施設はとりわけ印象深いもの一つです。この建物は、大正10年頃に上久下村の人たちが自力で建設した歴史的にも貴重な近代化遺産ですが、1960年代に役割を終えて以来長年放置されたため、最近では木造の屋根や床は朽ち果てて倒壊の危

機に瀕していました。しかしながら 2006 年偶然建物の足元から見つかった一片の化石がきっかけとなって、2007 年から本格的な発掘調査が行われた結果、前期白亜紀の新種の大型恐竜であると判明—丹波竜と命名されて世間は興奮に沸き立ちました。その後、建物は耐震的保存改修を施して博物館として恐竜とともに見事に蘇りましたが、周辺の独特の地形と景観は実は 1 億から 1 億 5 千万年まえジュラシックパークのように恐竜がのし歩いていたころの pangaea 大陸の名残らしく、この地形を今に活かして発電所が建設されたことがわかりました。耐震構造学も建築史学も実は数億年の地球と大地の歴史につながっていることを実感した次第です。

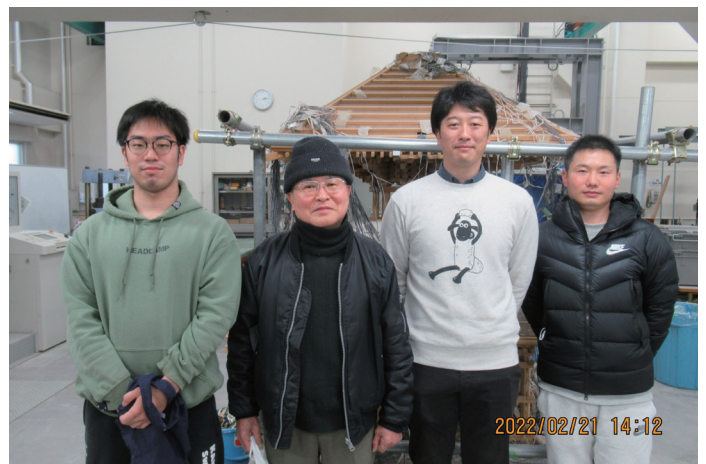
この十数年、保存工学研究室は学部生や大学院生とともに各地の歴史的建物に結構たくさん関わってきました。Field と Laboratory は本来一体であるべきですが、技術的な壁は厚く且高かったのは事実です。しかしながら近年観測装置の高性能コンパクト化が著しく進み、観測データ処理基盤も飛躍的に向上しました。GPS やインターネットなど情報通信インフラの普及は言うまでもなく、機材輸送についても全国津浦浦まで整備された物流のネットワークによって迅速に対応できるようになりました。

今後、建築学は 理論・実験・現地観測などがシームレスにつながり、そこに他の自然科学や歴史学が統

合化されていく可能性があります、大局的には近い将来現在の IT 界と同じように、建築工学も個別のコンテンツを開発とプラットフォームの構築の 2 つの方向に分化発展していくように思えてなりません。

いずれにせよ現代日本の建築界には広大な未開拓の後背地が眠っているようです。インターネットの普及によって 地域格差も時間格差の課題はほぼ解消しました。研究費があろうがなかろうが、チャンスはみな平等に与えられているようです。定年を迎えましたが、正直まだ遊び足りない気がしますので、何か世の中のお役に立てることを気楽に続けようと思っています。

以上



いつもとちがった 2020 年度の卒業式

橋寺 知子 (18 期)

新型コロナウイルスの影響がさまざまな場面で大学行事にも影響を及ぼしています。ほぼ 1 年前のことでありますが、2020 年度の卒業式は、卒業生と大学教職員のみでの出席で、全体の式典は配信を視聴、卒業証書の授与は学科ごとに教室で行なうという、今までにない形で挙行されました。コロナ以前は、千里山建築会会長も列席し、お祝いの言葉を述べ、入会の勧誘を行っていましたが、部外者の列席が許されなかったため、教員として在籍する会員が千里山建築会の紹介と勧誘を行いました。

卒業式で千里山建築会が長年行ってきた活動の一つが、卒業生の集合写真の撮影です。2020 年 3 月はコロナの影響はあったものの、プロのカメラマンは入構でき、いつも通り、悠久の庭での撮影ができましたが、去年は許されませんでした。せっかくの晴れの日、写真がないのも寂しいので、建築学科の先生方に協力していただき、教室で数人ずつスナップ写真を撮影し、つなぎ合わせて記念写真にしようということになりました。卒業研究等でお世話になった先生による撮影だったおかげか、にこやかな、いい写真が集まりました。当日はお天気も良く、まさに晴れの日で、「せっ

かくだからいつものように悠久の庭で集合写真を撮ろう」と建築学科の先生の提案があり、素人の撮影ながら、いつもと同様の集合写真も撮りました。

写真は編集して、入会した新会員にはダウンロード可能にしました。とは言え、入会手続きを取る新会員は多くありません。(皆、引越しや新年度からの準備で忙しいのだと思いますが…) 親しい友達との写真は、各自のスマホに数え切れないくらい入っているとありますが、卒業生全員がおさまる写真はもう撮れません。卒業から少し時間が経つと、そのことが実感できるのですが、まだこの時点では思い及ばないのかもしれないかもしれません。少し不自由な卒業式でしたが、卒業生にとって、記憶に残る日であればと思います。

2021 年度の卒業式はどうか。良い卒業式になれば…と祈っています。



事務局から

この1年の事業実施状況と今後の事業について

2020年3月以降、新型コロナウイルスの感染は拡大と収束を繰り返し、2022年1月時点では、オミクロン株の感染拡大により、再びまん延防止等重点措置が適用される事態となっています。千里山建築会では、2021年5月～2022年2月までに計5回の幹事会をオンラインで開催するとともに、HPやメールマガジンを通じた会員への情報発信、本会報の作成および総会の開催準備等を行ってきました。幹事会では、会員や在学生向けの行事開催について、オンラインでの実施を含めて検討しましたが、昨今の状況を考慮して断念しました。昨年度に引き続き、会員の皆様のための活動が十分にできていないことを深くお詫び申し上げます。私の会長任期もあとわずかとなり、振り返ると満足な活動ができなかったことは心残りですが、2022年度の総会が無事終了するまで精一杯がんばっていきたいと思います。

最後になりますが、2020年度卒業生の会費については、2019年度卒業生に引き続き徴収しないこととしましたので、ご報告します。また、2020年度の卒業式は2019年度に引き続き、式典を中止して卒業証書授与式のみが開催され、入構制限から会長である私も出席できませんでした。そのような状況の中、卒業生への本会入会案内や写真撮影等については、大学の諸先生方の多大なるご協力を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

事業報告

2020年度（2020/4/1～2021/3/31）

- 9月1日 第1回幹事会開催
- 12月18日 第2回幹事会開催
- 1月31日 会報第31号発行
- 3月19日 卒業証書授与式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

なお、企画運営、総務、広報の各担当者は随時各部会を開催

※《編集後記》

卒業式が近づいて来ました。コロナ禍で千里山集中を避け、各キャンパス分散で行います。式典自体は千里山からオンラインで、卒業証書授与の状況は各キャンパスの様態を、youtubeライブ配信します。高槻キャンパスでは、管理棟のカーテンウォールをデコレーションして、卒業生を送り出します。おめでとうございます。

(22期：市原淳)

会計報告

令和2年度（2020/4/1～2021/3/31）

収入の部		支出の部	
繰越金	¥1,749,292	卒業式記念写真代	¥19,000
会費	¥4,000	HP用サーバーレンタル料	¥13,200
郵便局利息	¥14	小計	¥32,200
		繰越金	¥1,721,106
合計	¥1,753,306	合計	¥1,753,306

繰越金明細

郵便普通預金	¥1,698,473
りそな普通預金	¥452
現金	¥22,181
合計	¥1,721,106

千里山建築会総会および講演会のご案内

2022年度の総会を5月8日(日)の11時から関西大学で開催する予定です。例年は総会終了後に懇親会を行いますが、大人数での会食が困難な状況ですので、代わりに講演会を予定しています。詳細は、決定次第、本会ホームページ、メールマガジンおよびはがきによりお知らせします。4年に1度の総会ですので、是非ともご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。なお、今後の状況により、オンライン開催に変更する可能性があることをご了承下さい。

イベント情報

「関西大学と村野藤吾 ガイダンスと建築ガイドツアー」

開催日 2022年4月3日(日)

講師 橋寺知子氏(関西大学准教授)

時間 ガイダンス 10:00～11:00

※終了後、建築ガイドツアー(1時間程度、セルフツアーも可能です)

※小雨決行 起伏がありますので、歩きやすい靴でご参加ください。

定員 30名(先着申込順)

申込フォーム <https://forms.office.com/r/2u2xcETd4A>

参加費 無料

集合 関西大学博物館

主催 関西大学博物館

TEL 06-6368-1171

